平成27年度小中学校事務職員ブロック研修会（〇〇ブロック）

テーマ　　学力向上について

0　はじめに

平成27年度に、「最近、学力向上が叫ばれるようになった。その経過やどんな学力が必要とされているかについて、事務職員も十分に知っておく必要ある。」ということから依頼を受けて、お話をすることになりました。以下はその概要です。

1　PISAショックから全国学力・学習状況調査の実施まで

（1）　PISAショックから全国学力・学習状況調査の実施まで

〇なぜ、今、学力向上なのか　／　ことの起こり　／　国の動きについて　／　現状どうなっているか

→　国は、PISAショックにより「学習指導要領の改正」と「全国学力・学習状況調査の実施」を行っていった。

（2）　PISA調査

〇PISA調査（国際学習到達度調査）

Programme for International Student Assessmentの頭文字

〇OECD（経済協力開発機構）

加盟国の経済的発展、開発途上国への援助、貿易の拡大などを目的とする国際的な組織

〇義務教育修了段階の15歳児の知識や技能を、実生活のさまざまな場面でどれだけ活用できているかをみる。

〇2000年から3年ごとに実施

〇高校1年生を対象　：　義務教育終了段階の15歳児

〇読解力，数学的リテラシー，科学的リテラシーの3分野を調査

リテラシー　：　活用力

〇生徒質問紙調査と学校質問紙調査も実施

→　実生活で活用する力を調査している

（3）　PISAショック

学力の低下

自由記述問題の無回答率の高さ

欧米と日本のテストの違い

欧米：自分の考えを述べる問題　日本：正解が1つである問題

（4）　PISA調査結果　その後

略

（5）　現在の学習指導要領

2011年（平成23年）　小学校　完全実施

2012年（平成24年）　中学校　完全実施

○授業時数の増加

　小学校　週当たりのコマ数を低学年で週2コマ、中・高学年で週1コマ増加

　中学校　週当たりのコマ数を各学年で週1コマ増加

○学習内容の充実　　例）　英語科　語数を増加（ 900語程度まで → 1200語程 ）

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得

○これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力を育む（ 活用力の育成 ）

○国語をはじめ各教科等で言語活動の充実

　（話し合う活動，説明する場面の設定，書く活動）

○「はどめ規定」（詳細な事項は扱わないなどの規定）を原則削除

（6）　全国学力・学習状況調査

2003年（平成15年）　PISAショック

2007年（平成19年）　全国学力・学習状況調査　開始

※全国学力・学習状況調査は<u>PISA調査・PISA型読解力を意識</u>したものとなっている。

（7）　全国学力・学習状況調査　－ これまでの実施経過 －

略

（8）　全国学力・学習状況調査の結果

略

（9）　全国学力・学習状況調査結果の公表

略

2　全国学力・学習状況調査から見られる育てるべき学力

※全国学力・学習状況調査のうち学力調査の問題は，学習指導要領を具現化したものである。

※学習指導要領の内容がどこまで定着しているかを，全国学力・学習状況調査で確かめている。

※全国学力・学習状況調査はPISA調査のPISA型読解力を意識した問題となっている。

※PISA型読解力を理解することで、国がどんな力を求めているかが理解できる。

それは、国際的にも、求められている力である。

（1）　PISA型読解力とは

（2）　読み取り　3つのタイプの例

昔話「桃太郎」を例に

（3）　非連続型テキストの例

全国学力・学習状況調査のB問題から

3　学力向上の取り組み

（1） 授業の改善

※言語活動の充実

話し合い活動，説明する場面設定，書く活動

※活用力育成のための学習課題の設定やワークシートの作成

県教育委員会のHP 「授業改善モデル」「先生のページ ワークシート」の活用

※みえスタディチェックの実施

※全国学力・学習状況調査のうち、学力調査問題の活用

学力調査問題は、学習指導要領を具現化したものである

※みえスタディチェック問題の活用

※学級づくり，仲間づくり　　学級満足度調査（QU調査）を活用して

※ユニバーサル・デザインに基づく授業づくり

特別な配慮が必要な子どもにとって分かりやすいことは，すべての子どもにとっても分かりやすい。

(2) 家庭学習の改善

略

(3) 生活習慣の改善

① 全国学力・学習状況調査のクロス集計から

○朝食を毎日食べていますか。

○家の人と学校での出来事について話をしますか。

毎日が発表の練習

一日を振り返り，何を話すかを決め，順序立てて分かりやすく説明する。

親にとっては，子どもの今日の様子が分かる。

親と子の関係がよくなる。

子どもの話を聞く，認める，時にはほめることで，「自分は大切にされている」という感情が生まれる。確かなものとなる。自尊感情の育成とかかわる。

○携帯電話・スマートフォンに費やす時間

・使わせないということは不可能。どのように使うか，向き合わせるかが大切。

・ネットの光と陰を教えるべき。情報モラル，情報活用能力

・片時も手放せない状況　依存症にさせない。　　一定距離を置く時間を持つ

○ゲームに費やす時間

○テレビ・ビデオに費やす時間

② 生活習慣改善の取り組み

「 学力向上県民運動 」

「 生活習慣チェックシート 」

※県から生活習慣チェックシートの活用状況の報告が求められる。

※就学前の子ども向けもあり，幼稚園・保育園にも配布している。

４　急激な社会の変化への対応

○　高齢化社会 → 高齢社会 → 超高齢社会

※ 高齢化社会

散歩をしている高齢者をよく見かけるようになった。

高齢化率　総人口に対して65歳以上の高齢者人口が占める割合

世界保健機構や国連の定義

高齢化社会　7％を超えた社会

高齢社会　14％を超えた社会

超高齢社会　21％を超えた社会

日本は今、何社会？

2007年　21．5％　（21％を超えた）

2010年10月　23．1％

→　超高齢社会　5人に一人は65歳以上

○○市は

65歳以上の割合　2010年（H22年）実績　21．7％　超高齢社会

2025年（H37年）推計　28．1％

2035年（H47年）推計　31．8％

○　少子化

○○市　本市27小学校のうち、全学年が単学級の学校

H27年現在　10校

H30年　複式学級の設置

H32年推計　12校

学び合うには、ある程度、児童生徒の人数が必要

学校の統廃合ではなく、小中一貫教育学校で対応する動きがある

○　グローバル化

人・もの・お金・情報が国や地域を飛び越えて地球規模で混じり合う状況になること

グローバル社会

日本人が世界に出て行き，世界で活躍する，世界に貢献する。

外国人が今まで以上に日本で生活する。

少子化による労働力不足，難民の受け入れ（？）

共通言語である英語が必要

世界では英語を母国語とする国・地域ばかりではない。

しかし，英語を母国語としない多くの国・地域でも，英語を必要として学習されているのではないか。

国際交流で海外に行かれた青年の話　「英語で簡単に説明する力が必要」

○　情報化社会・高度情報社会 → 知識基盤社会

インターネットの普及

簡単に手に入る膨大な情報

スマートフォン　：　インターネットに接続された超小型パソコン

スマートフォンやインターネットの功罪が言われている。

しかし、これからの子どもたちは、これらの仕組みを使うことを避けて通れない。

使わさないのではなく、情報活用能力の育成が重要。

本当に正しい情報か，価値のある情報かという判断できる力を育成していくことが必要

受信するときの留意点、発信するときの注意点

簡単に手に入る膨大な情報（知識）をいかに活用するかが重要

この原稿も聞きかじった内容を、インターネットで確認したり、内容をふくらませたりしながら作成した。

例えば、こういった力が必要ではないだろうか。

※激動する社会で豊かに生きていくための「生きる力」の育成

基礎基本だけではダメなのではないか。活用力も必要である。

これまでは、基礎基本を重視。

これからは、基礎基本も活用力も。

基礎基本と活用力は車の両輪と捉えたい。